

スポーツと女性 その①

- (1) スポーツと女性-服装の視点から-
- (2) 人見絹枝の生涯**
- (3) 人見絹枝は何と闘ったのか

「女性とスポーツ」 -人見絹枝-

人見絹枝

人見細枝（ひとみきぬえ）

1907年（明治40年）岡山生まれ。二階堂体操塾（現日本女子体育大学）時代に陸上競技選手としての素質が開花。短距離から投擲まで万能で、当時の世界記録を何度も塗り替えてきた。

1926年、スウェーデンの第2回女子オリンピックで個人総合優勝。

女子陸上競技が初めて採用された1928年の第9回アムステルダム五輪800メートルで銀メダルに輝いた。

「1996年3月14日付け『中日新聞』」（要約）

1928年 オリンピック・アムステルダム大会
女子800m決勝 ラトケ(独)に次いで2位に入る ⇒



1928年・アムステルダム五輪・陸上女子800m

1928年8月2日、女子800m決勝のレース、9人のランナーの中には、**人見絹枝**がいた。

一周目、後方につけていた人見は次第にピッチを上げ最終コーナーに差しかかった、その時である。前の選手を抜こうとしてひざをスパイクされてしまった。直線での懸命の追い上げも2m及ばなかった。

優勝した**ラトケ(ドイツ)**が2分16秒8、2位の人見は2分17秒6、ともに世界新記録。ゴール後に全選手がばたばたと倒れた。このレースを機に女子では過酷過ぎると五輪種目から外された。復活したのは32年後の第17回ローマ大会である。

人見の800m挑戦にはプライドがかかっていた。12秒2の世界記録を持つ**100mに出場**したのだが、準決勝で4着に終わり**決勝進出を逃してしまう**。周囲の反対を押し切り、無謀は承知で800mに賭けた、という。



人見絹枝の生い立ち

1907年(明治40)	岡山県御津郡福浜村に農家の次女として生まれる。1月1日
1913年 (大正2) 6歳	岡山県御津郡福浜尋常小学校に入学。(人見絹枝の銅像がある)
1920年 (大正9) 13歳	岡山県立岡山高等女学校(現操山高)に入学。テニスに夢中になる。
1923年 (大正12) 16歳	岡山県第2回中等学校競技会に出場し、 走幅跳4m67 で優勝する。 テニス部長から「学校のために陸上競技大会に出場を請われていた」
1924年 (大正13) 17歳	二階堂体操塾(現日本女子体育大学)に入学。陸上選手としての素質が開花。短距離から投擲まで万能で、世界記録を何度も塗り替える。 三段跳びで10m33 の世界記録を出す。
1925年 (大正14) 18歳	二階堂体操塾を卒業 京都府第一高等女学校に就職(4ヶ月) 3月、二階堂体操塾が東京体育専門学校に昇格、研究生となる。
1926年 (大正15) 19歳	大阪毎日新聞社に入社。(新聞記者という仕事は、当時の最先端をいく職業だった。)

人見絹枝の生い立ち

1926年 (大正15) 19歳	第2回万国女子オリンピック大会(スウェーデン・イエテボリ)に出場 100ヤード12.0秒(3位)、走幅跳5m50(1位)、立幅跳2m39(1位) 円盤投33m62(2位)、個人総合15点で優勝。
1927年 (昭和2) 20歳	女子体育大会(神宮)で200m26.1秒、立幅跳2m61の世界記録
1928年 (昭和3) 21歳	第5回日本女子オリンピック大会で400m59.0秒の世界記録 第9回アムステルダム五輪800mで銀に輝く。
1929年 (昭和4) 22歳	第6回日本女子オリンピック大会で200m24.7秒の世界記録 朝鮮・日・独対抗試合(京城)で100m12.0秒、走幅跳6.07mの世界記録
1930年 (昭和5) 23歳	第3回女子オリンピック(チェコ・プラハ)で個人総合13点(2位) 60m7.8秒(3位)、走幅跳5m90(1位)、槍投37m10(3位)、三種競技194 点(3位)、400mリレー52.0秒(4位)、日本は総合14点(4位) 欧州各地で親善試合に出場。体調を大きく崩す。

1926年(大正15年)第2回万国女子オリンピック大会(イエテボリ)

- ・人見絹枝19歳、**唯一の日本人選手**として出場。

- ・8月にスウェーデンの第二の都市イエテボリで開催

<大会成績> 100ヤード (12.0) 3位 走幅跳 (5m50) 1位 立幅跳 (2m39) 1位
円盤投 (33m62) 2位 個人総合 (15点) 1位

その他 60mで5位、250メートル走で6位 (やり投と砲丸投は棄権)

- ・走幅跳の表彰

「…日章旗がセントポールに掲揚され、君が代がグランドいっぱい流れると『ヒトミ』『ヒトミ』と声を上げて喜んでいる。『これで私の3日間の競技は全て終わった』嬉しさ以上に言い様のない寂しさが襲ってくる…。」 (人見絹枝)

- ・**最優秀選手**として人見絹枝が選ばれ、競技会会長ミリア夫人から名誉賞が授与される。

1928年(昭和3年)第9回オリンピック(アムステルダム)

- ・女子の参加が初めて認められた大会。
- ・陸上では5種目が行われる(100m、800m、走高跳、円盤投、4×100mR) 人見絹枝の得意な走幅跳はない。
- ・100mに絞って出場したが、準決勝で4位となり敗退。
- ・「このままでは日本に帰れない」という思いで、走ったことのない800mにエントリーする。
- ・結果は、ラトケ(独) 2:16.8が優勝、人見絹枝は2位 2分17秒6
- ・人見絹枝は優勝したドイツのラトケともども失神して倒れ込む壮絶なものとなり、これが影響して女子800mは次のロサンゼルスオリンピック(1932)からメルボルンオリンピック(1956)まで種目から除外されることになる。

人見絹枝の生きた時代 大正デモクラシーの時代

大正デモクラシーとは

・・・民主主義という意味。1912年から1926年の大正時代に日本で展開された様々な自由主義、民主主義的な運動を指す。産業革命により、労働問題、都市問題が顕著化し、政治的関心が高まり運動へと発展した。

政治の民主化・・・日清、日露と2つの戦争を経て、貧困に陥った労働階級の人々は、自分たちが生き残るため、資本主義に対して大きな声をあげた。民意が政治参加するようになり、民意が日本の動向を規定するようになった。米騒動の頻発から当時の内閣を退陣させるほど、民衆の力は強くなっていった。1925年（大正14）男子の納税義務を撤廃した**普通選挙法**が成立。但し、女性には選挙権はない。

労働者の労働条件の改善・・・ストライキなどの労働争議もおこり、1920（大正9）年には日本で**最初のメーデー**も開催された。

身分差別の解消・・・差別に苦しんできた被差別部落の人々やアイヌ民族の**解放運動**も起こる。1922年（大正11）**全国水平社**結成

人見絹枝の生きた時代

女性の社会進出の時代

1918年～21年 女学校ブーム

1920年代、文部省を中心として「女子の体育」が論じ始められるようになる。

平塚らいてう、市毛房枝を中心に**女性の政治活動**の自由や男女の機会均等などを求めて活動が進められた。1920（大正9）年には「新婦人協会」が設立。

1924年（大正13）、大阪市で初めて乗り合いバスが走ることになり、洋装の制服姿の女性車掌に注目が集まった。当時、**職業婦人**が増えて**女性の社会進出**が進んだ。

（それまでは教員や看護婦、女医といった専門職に限定されていた女性の職業が、美容師、事務員、タイピスト、店員、電話交換手といったサービス業に広がる。）

断髪、ワンピース姿、洋風化粧姿で都会を闊歩する女性は、**モガ（モダンガール）**と呼ばれる。トンカツやコロッケなど洋食も広まり、現在にもある菓子などが生まれた。

一方で、1925年(大正14)治安維持法が公布され、
軍国主義へと向かう時代でもあった。

<p>1928年 (昭和3年)</p>	<p>2.20 第16回総選挙(初の男子普通選挙)が実施される。 初の男子普通選挙による第16回総選挙 政友217 民政216 無産諸派8</p> <p>3.15 共産党の壊滅をねらう『三・一五事件』共産党員の大量検挙 ・・・小林多喜二「3. 15」「蟹工船」起稿</p> <p>4.22 治安維持法(社会運動の取り締まり)</p>
<p>1930年 (昭和5)</p>	<p>昭和恐慌 国民は政党ではなく、満州の権益拡大を目指した軍部を支持するようになる。その結果、政党は軍部の意向に沿うようになり、中国への侵略も正当化されるようになっていく。</p> <p>張作霖爆殺事件 関東軍は中国の内戦に乗り、意のままにならなくなった張作霖を列車ごと爆殺した。 ・・・満州事変 1931年(昭和6)に連動</p>

女性スポーツの利用

良妻賢母を標榜棒しつつも、女性の社会進出は、日本社会でも大きな流れとなって迫ってきた。当局もそうした動向を一定受容れずにはおれなかったが、女性スポーツにおいては（男性のスポーツはもちろんだが）以下のことに“利用価値を見出した。

ナショナリズム・国威発揚に利用される

私は再び起こる万歳の声に、早くも限が熱くなり、ついにポタリポタリと熱い涙が落ちました。思えばこの涙こそ大和魂からしぼりだされるものでなくてなんでありましょう。

日章旗！大和民族ならでは得がたき、この愛国心のほとばしり。奮い立て、日東の婦女子！目覚めよわが友よ！」

世間、ほんとに冷たい



日本人女性初の五輪メダリスト

人見絹枝の日記発見

1928年のアムステルダム五輪の女子陸上800メートルで2位に入り、日本人女性初のメダリストになった人見絹枝(現写真)が17歳のときにつづった日記が、出身地の岡山市内の生家で見つかった。女性のスポーツ選手に対する理解が乏しい時代に、競技に打ち込んだ人見の心境が記されている。

日記は4月下旬、親類の住む生家のタンスの裏から見つかった。市販の日記帳に24年1月1日から11月16日までの記載がある。人見が岡山高等女学校(現岡山操山高校)から二階堂体操塾(現日本女子体育大学)へ進んだ時期で、巻末に本人の署名もあった。

日記は4月下旬、親類の住む生家のタンスの裏から見つかった。市販の日記帳に24年1月1日から11月16日までの記載がある。人見が岡山高等女学校(現岡山操山高校)から二階堂体操塾(現日本女子体育大学)へ進んだ時期で、巻末に本人の署名もあった。

日記の発見を機に、一アスリートを超え、あの時代の社会通念に大きな影響を与えた彼女の業績を再確認してほしい」と話している。

「ポランティア」など
商標取り消し
角川HD承諾

角川ホールディングス(HD)は17日までに、同社が商標登録していた「NPO」「ポランティア」について、特許庁の登録取り消し決定の受け入れを決めた。特許庁は5月、「特定の人に独占使用を認めることは公益上、適当」とは言えない」と取り消しを決定。その通知から30日以内に知的財産高裁に不服申し立てができるが、角川HDは申し立てはしないという。

女性選手に対する世間の見方

人見絹枝が書いた日記が見つかる。

1924年1月1日～11月16日に書いたもの(人見が17歳のとき)

11月6日

「決して快ではなかった。世間の人の冷たさに。それはほんとに冷たいものだった」

11月に、全日本選手権陸上競技大会に出場。絹枝は17歳。

女性蔑視の時代

国内では無敵の人見絹枝だが…

- ・岡田文部大臣発音（清永 孝「良妻賢母の誕生」ちくま新書）

「若い女が ① を見せて走っているのを見たがあまり感心できぬ」 女学生の運動競技に ① を出させぬ算段」
神宮競技を見ても感心出来ぬと文部省から各学校に通牒（読売新聞大正13年11月11日）



それに対して

- ・「スポーツが流行しだすために、伊予餅も売れなくなるかもしれませぬが、それは止むを得ないでしょう。…日本の女子も今日の如く、昔の俵の垂髪や太鼓帯で下駄なんか履いている場合じゃありません」（愛媛での講演「はやての女性ランナー」 p 79）人見絹枝17歳のとき

① …ふともも

女性蔑視の時代

- ・彼女が走って勝つと心ない観客から② と云われ、彼女の強さに人々は「③ ではないか！」とはやした。



それに対して

- ・女に学問はいらぬ。ましてスポーツなど！という時代に21歳の絹枝は、「陸上競技の方はこの位進歩して居れば関東・関西の女学校に比しても大した遜色はなく末頼もしいと思います。服装は今のままではいけません。少なくともスカートなんか廃して膝の上でくくるパンツ位穿かなくては思う存分駆けられないと思います」(1928・11・3東奥日報)

②

…男おんな

③

…おばけ